

フィッツジェラルディーニョ短
編集①ジェームズがこんなこ
とやってみました

フィッツジェラルディーニョ

第一話 冒険野郎ジェームズ ～俺の心を丸裸にしたアイツ～

「パパ！まだおいかけてくる！」

急な出来事だった。その日、ジェームズは娘のジェシカと遊園地「コニー・アイランド」で終日過ごした。そう、『アップタウン・ガールズ』でレイとモリーが遊んだあの遊園地である。8時間ほどコーヒーカップに乗り、すっかり暗くなってから帰路についた。

ジェシカが笑顔で「あ～目が回った～」と言っていたときは良かった。その嬉々とした声が悲鳴に変わるのに、そう時間は要しなかった。家に帰るためには10時間ほど車を走らせて森を抜けなければならないのだが、いつからか車の後ろを人がついてくるようになった。それもチェーンソーを持った男が、フランス映画『ハイテンション』ばりに追いかけてくるのだ。

こちらは車であるにもかかわらず、アクセルは思い切り踏み込んでいるにもかかわらず、奴は追ってくる。逃げて逃げて追ってくる。『ターミネーター2』のT-1000のごとく追ってくる。そこには『ハイテンション』のマリーのような美貌もなければ、もちろん『モンテーニュ通りのカフェ』のジェシカの可愛らしさなど微塵もなかった。

ちょうど『ハンガー・ゲーム』に出てくるような深い森であるため、助けを求め得る術もない。ジェームズは戦うしかないと観念し、急ブレーキをかけて奴を車体後部にぶつけてみたが、全くひるむことを知らない。むしろバックして轆き、さらに前進して2度まで轆いてもはや息の根を断ったかとも思ったが、それでも奴は立ちあがり追ってくる。この時、一家は初めて追いかける者の恐怖を知った。『ムカデ人間』でリンジーが逃げ出し、ハイター博士から追いかけるシーンで感じた恐怖と似たものだった。

ジェームズたちは逃げる。奴を撒くため、森の中を無計画に走りまわってみたが、やはりぴったりと追いかけてくる。奴との距離が徐々に縮まり、チェーンソーの刃がガラスを傷つけた。ジェシカの悲鳴が響く。

(もう駄目か・・・)

諦めかけたその時、光り輝くものが前方に見えた。天使が先導し始めたのだ。むさい風貌の天使だった。やる気のなさそうな顔で、タバコをふかしながら、しかし確かに先導している。ジェームズは

(どこかでみたことあるな・・・なんだろうな・・・)

と考えていたが、やがてピンときた。『マイケル』でジョン・トラボルタが演じた天使マイケルそのものだったのだ。

そんな話はさておき、マイケルは先導する。天使の軌跡を信じて走っていると、なんなら『オー！ゴッド』さながらに車内のラジオから神の声まで聞こえてくる。ジェームズとジェシカは勇気百倍で聖歌を合唱しながら走った。

ある地点に至ると、急にマイケルが失速・停止して振りかえり、グッと親指を立てて天に召された。ラジオで神が言う。

「この先は断崖絶壁だが・・・」

「え！？オーマイゴッド！私を騙したのですか！？」

「いや、そうではない。車で崖を降りるのだ」

「死んでしまいます！」

「なに、以前この崖を鹿が駆け降りるのを見たことがある。鹿が降りられるなら車も降りられぬ訳はなかろう」

ツーツーツー・・・

「神様の意地悪！！」

もう奴はすぐそこまで来ている。ジェームズは決心した。目を瞑ってアクセルを踏み込んだ。確かに、車と鹿は足が4本という点で共通しているが、車はその足を自在に操って岩場を駆け降りることができないのが致命的だった。足場を失うやいなや、車はごろごろと転がって落ちて行った。

(神様の嘘付き・・・)

遠のく意識のなかで、ジェームズは神を恨んだ。

目が覚めた。家のベッドだった。

「なんだ夢かぁ」

よくある夢オチだった。

「なんだか『天使がくれた時間』とか『もしも昨日が選べたら』みたいだなあ」

彼がひとりごとを呟いていると、急にテレビがついた。

「おはよう、ジェームズ。ゲームがしたい・・・」

画面に映し出される不気味な人形。見覚えのあるシーン。

「もうヤダヨ！」

これもまた夢ならいいのだが・・・ジェームズの運命やいかに！？

次回作「ジェームズとジェシカのクリスマス ～暴力サンタクロースのトナカイ狩り～」にご期待ください。